

びぜんこくぶんじあと
備前国分寺跡

りょうぐうざんこふん
両宮山古墳

しせき 史跡だより

第12号

備前国分寺跡講堂地区の整備工事完了

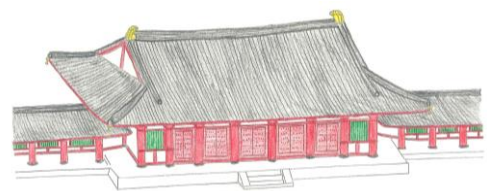
現地見学会を開催しました！



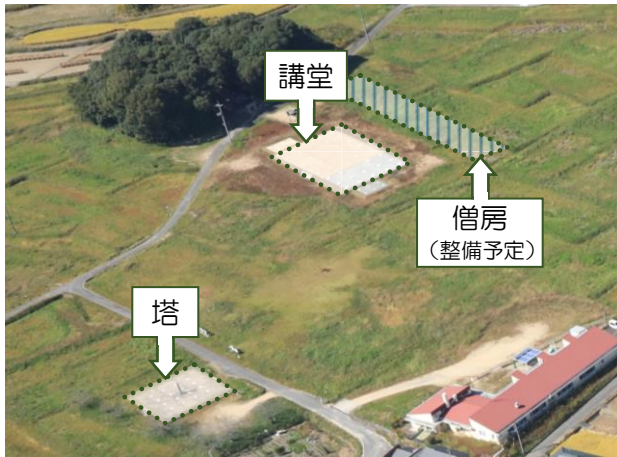
現地見学会の様子（地面の大きな石が礎石）

備前国分寺跡において、3月18日に現地見学会を開催し、整備工事が完了した講堂地区をご案内しました。現地には、発掘調査で明らかとなった規模・構造をもとに、講堂とそれにつながる回廊（屋根の付いた廊下）の基壇を復元し、礎石を配置しています。（整備の様子は「史跡だより」第2・4・6号参照）

見学会では、実物大に復元した基壇上の礎石の配列から、東西約33m、南北約16mにおよぶ講堂の大きさを体感していただきました。また、礎石のうち4個は、奈良時代に講堂の柱を支えていた実物を使用しており、来場者の注目を集めました。みなさんには、お坊さんたちが議論している往時の講堂の様子を想像していただけたのではないのでしょうか。



講堂の想像図



上空から見た備前国分寺跡

備前国分寺跡では、歴史を学習・体感する場として広く活用できるよう、平成 21 年度から保存整備事業を進めています。今後は、僧たちの生活の場であった僧房地区の整備計画を検討する予定です。進捗状況は、「史跡だより」やホームページなどで随時お知らせしますので、ぜひご期待ください。

なお、整備の完了した塔地区・講堂地区は常時公開しており、解説板も設置していますので、お気軽にお立ち寄りください。

好評販売中！

シンポジウム記録集 1

両宮山古墳とその時代



5世紀後半に造られた備前地域最大の
ぜんほうこうえんふん
前方後円墳の真実に迫る！！

平成 27 年度に市制施行 10 周年を記念して開催された史跡両宮山古墳のシンポジウムの内容をまとめた記録集を刊行しました。第一線で活躍する研究者らによる講演の記録とパネルディスカッションの内容に加え、両宮山古墳築造の時代背景に迫る新稿も掲載しました。

誰が眠る墓なのか？埴輪と葺石がないのはなぜ？吉備と畿内・朝鮮半島との関係は？両宮山古墳の謎に挑んだ一冊です。

* A 5 判、巻頭カラー写真、本文 133 ページ

* 価格：1,500 円

赤磐市山陽郷土資料館窓口にて販売

お問い合わせ先：赤磐市山陽郷土資料館 (Tel 086-955-0710)

岡山県赤磐市教育委員会 平成29年5月1日発行

〒709-0816 岡山県赤磐市下市 337 番地 Tel086-955-0710 URL:<http://bunkazai.akaiwa-rekishu.jp/>